

災害公営住宅がより良い環境になるように 熊本工業高校の挑戦



インテリア科の挑戦

畑中団地の住民の交流を

あいにくの雨となった7月13日、町公民館福田分館で、「畑中地区災害公営住宅におけるものづくりに向けた座談会」が開催されました。

最初は、応急仮設住宅で実施する予定でしたが、SPHに指定された平成30年度には、応急仮設住宅の当初の退去期限である2年が過ぎようとしていたため、災害公営住宅で実施することになりました。益城町で最初に完成した3団地の中から、畑中団地を活動の場と決め、「顔合わせ会」などに参加し、交流を図ってき

ました。
この日は、インテリア科の山本昌宏先生、田中敬三先生と3年生9人が出席。畑中団地からも子ども3人を含む5世帯9人と、田崎研一畑中區長が参加し、和やかな雰囲気です。座談会がスタートしました。晴れてい

れば、みんなで畑中団地に移動し、現地を確認しながら座談会を進めることでしたが、雨天のため、全て公民館室内での進行となりました。
座談会には、畑中団地を設計・施工した業者も出席し、設計の意図などの説明が行われました。全ての住宅を南向きにするなど、住環境を良くすることを第一として設計したそ